

心理、MRI検査を受けた皆様へ（臨床研究に関する情報）

病気の原因の解明、病気の予防・診断・治療の改善、生活の質の向上などのために、人を対象として行われる研究のことを臨床研究といいます。より良い医療の発展のために、多くの患者さんに臨床研究にご協力頂く必要があります。

量子科学技術研究開発機構では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、本研究とは別途に実施された別の臨床研究のデータをまとめて解析することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先：窓口」へご照会ください。

[研究課題名] 精神症状関連認知機能と脳機能の網羅的解析研究

(実施期間：2016年7月29日～2026年3月31日)

[まとめてデータを解析する対象となる別途に実施された臨床研究]

- 機能的MRIと生理心理指標を用いた社会認知メカニズムの解明
- ドーパミン作動性神経系と自己意識・他者意識との関連
- [18F]FMeNER-D2を用いた脳内ノルエピネフリントランスポーターの性差と加齢変化に関するPET研究
- 現実感喪失感覚に関する認知心理学的研究
- [18F]FMeNER-D2を用いた抗うつ薬デュロキセチンの脳内ノルエピネフリントランスポーター占有率に関するPET研究
- 主観的体験の生成メカニズムの解明
- [11C]racloprideの2回急速投与方法によるドーパミンD2受容体結合能の測定精度及び再現性に関する研究
- マジンドールによるドーパミントランスポーターへの作用に関する研究
- セロトニン作動性神経系と視覚体験に関する研究
- 抑うつ状態における脳内セロトニン神経伝達に関する画像研究
- 放射性リガンド[11C]M-2を用いた、脳内ヒスタミンH3受容体定量測定法の確立
- [11C]raclopride連続ボース投与方法によるドーパミンD2受容体結合能変化の測定感度に関する研究
- 脳内タウイメージング用放射性薬剤[11C]PBB3を用いた外傷性脳損傷の病態に関する研究
- 放射性リガンド(E)-[11C]ABP688を用いた、脳内代謝型グルタミン酸受容体5定量測定の再現性評価
- 糖尿病神経障害に伴う痛み体験と脳内ノルアドレナリントランスポーター及びセロトニントランスポーターに関する研究
- 放射性リガンド[11C]HMS011を用いた、脳内AMPA型グルタミン酸受容体定量測定法の確立
- 視覚体験の認知神経基盤研究
- 糖尿病神経障害に伴う痛み体験に関する研究
- 脳内における姿勢制御機構とその破綻メカニズムについての研究

[研究機関] 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 量子医科学研究所

[研究責任者] 山田 真希子

[研究の目的]

精神症状に関連する認知機能と脳機能を網羅的に解析し、精神疾患の特徴を包括的に明らかにすることを目的とする。

[研究の方法]

- 対象となる研究対象者さん

量子医科学研究所にて2009年11月5日以降に心理、MRI検査を行われた方

●利用する研究情報

別途実施済みの研究データを使用しますので、新たな質問や検査の必要はありません。

年齢、性別、今までの病気の経過、診察所見
検査所見（MRI画像、心理検査結果）

[個人情報の取り扱い]

お名前や個人情報がでることは、一切ありません。

利用する情報からは、お名前、住所など個人を直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の研究記録を使用されることを辞退したい方は、2023年6月30日までに
下記[問い合わせ先:窓口]にお申し出ください。

この調査へのご自分の診療記録の使用をお断りになったとしても、なんらかの不利益を受けることはありません。いつでもお断りいただけますので、その場合は、下記[問い合わせ先:窓口]にお申し出ください。ただし、期日を過ぎてデータが解析でまとめられてしまった後等には取り除くことができない場合があります。

[問い合わせ先:窓口]

千葉県千葉市稲毛区穴川4-9-1

QST病院臨床研究支援課

電話:043-206-4713 平日: 9:00 ~ 17:00